



写真 21

は大人の目から見れば全く奇妙なものに思われがちである。しかしこの一見無駄に思える遊びから、新しい画像へと発展していく。それはこの種の画像の中に彼ら自らが発展の端緒を発見しているからである。つまりこれらは新製品開発のための実験や試作品なのである。しかしこのよう

な絵は一人きりでの描画の時にのみ現われがちである。もちろんこのような実験の成果が、ほんとうに花開くのは集団の場であり、社会性のある具体的な作品の中においてである。私は描画の発達に関して集団とのかかわりを決して小さく評価するものではないが、今回は一人きりになりきることの意義、つまり主体性の確立を特に強調しておきたい。

おわり

幼児の教育 第七十三巻 第二号

二月号 © 定価一七〇円

昭和四十九年 一月二十五日印刷  
昭和四十九年 二月 一日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所  
所 フレーベル館にお願いいたします